

長崎県の土木の“いま”をお伝えします

DOVOC

通信
ながさき

FEBRUARY 2008



特集
1

ながさきサンセット・オーシャンロード

特集
2

長崎県のダム事業

頑張れ!ルーキー

まちづくり人づくり

iroiroお知らせ隊

DOVOC



No. 3

 長崎県

表紙写真©新西海橋(佐世保市)
裏表紙の関連記事をご覧ください

特集 1

「ながさきサンセット・オーシャンロード」が、
日本風景街道に登録されました。魅力ある
地域づくりの活動が本格的にスタートします！

日本風景街道「ながさきサンセット・オーシャンロード」は、長崎県西
海岸沿線の松浦市、平戸市、江迎町、鹿町町、佐々町、佐世保市、西海市を
通って長崎市に至る全長約二八〇kmのルートです。西部の海岸線を縁
取るように走り、開放的で多彩な海洋景観と夕日を存分に楽しめます。
また、世界遺産暫定一覧表に登録された「長崎の教会群とキリス
ト教関連遺産」の構成資産となっている教会、国際貿易の拠点とし
て発展した歴史を物語る洋館等の貴重な建物も多数あり、それ
らを活用した魅力ある地域づくりが各地で行われています。

夕日、教会、橋などの
ビューポイントを生かした
長崎県の新しい観光ルートだよ

ヴィーナスウィング長崎女神大橋



ザビエル記念教会



宝亀教会



田平天主堂



大浦天主堂

日本風景街道とは

地域ならではの風景や自然、歴史、文化などの資源を活かして、訪れる人をもてなし、よるこびや感動をもたらす。地域や道路の魅力の再発見、再構築によって地域の活性化と美しい道づくりを目指す取り組み、それが「日本風景街道」です。





長崎市式見



船越展望所からの眺望(佐世保市)



グラバー園



展海峰からの眺望(佐世保市)



大バエ灯台(平戸市)

●これからの活動内容

「ながさきサンセット・オーシャンロード」を活用した魅力づくりを進めていく活動方針として、次の4つをまとめました。

組織づくり

推進協議会や地域連絡会議を開催するほか、地域間相互のネットワークづくりや他地域との連携を図っていきます。



推進協議会



地域再発見バスツアー

人づくり

地域の魅力を伝え、ファンを増やし、訪れる人をもてなす「人づくり」を進めます。



手づくりイベント(雪浦ウィーク)

この4つの方針のもと、各活動団体の一体感を高め、ルート沿いの美しい風景づくりや生き生きとした地域づくりを具体化し、それぞれの活動が連携していくことで、地域全体の魅力がさらに増していくと考えています。

舞台づくり

来訪者をお迎えするため、案内板の整備、シニックデッキ、ルート沿いの植栽などの「舞台」づくりを進めます。



老朽化したガードレール



改善状況

※シニックデッキ
道路沿いの空き地を利用した休憩所

しかけづくり

地域ならではの資源を活かして、来訪者を迎えるためのイベントや体験メニューを実施する「しかけ」づくりを進めます。



情報発信(ホームページ作成)

●今後の課題

風景街道のコンセプトの浸透が地域によって差があるため、研究会やシンポジウムなど、意識や連携を高めていく活動を地道に重ねる必要があります。キリスト教の歴史や教会群が大きな魅力となっていることから、今後は五島、島原、天草との連携も検討していきます。

貴重なキリスト教遺産も
たくさんあるね。



出津教会(長崎市海外)

特集
2

長崎県のダム事業

ダムは、洪水を防ぐ、水道用水を貯めるなどいろいろな役割があります。今回は、ダム建設の目的と長崎県で行っているダム事業をご紹介します。

ダムには洪水を調節することのほかにもいろんな役割があるんだよ



笛吹ダム建設事業

松浦市志佐町を流れる二級河川、志佐川の洪水調節と、松浦火力発電所への水の供給を主な目的として建設しました。



平成19年11月18日竣工式を行いました。

長崎水害緊急ダム事業（本河内高部ダム）

明治24年、水道専用ダムとしては日本で初めて建設されました。昭和57年の長崎大水害後、抜本的な治水対策を図るため、旧ダムの上流に新たにダムを建設しました。



平成18年度、新しい高部ダムは完成しました。現在、本河内低部ダムの工事を行っています。

昭和57年の長崎大水害では、上流からの土石流を止め下流へ流れるのを防ぎました。



伊木力ダム建設事業

伊木力ダムは、伊木力川の洪水調節と水道用水確保のために建設中の多目的ダムです。ダムの安全を確認するため、現在は試験的に水を貯めています。



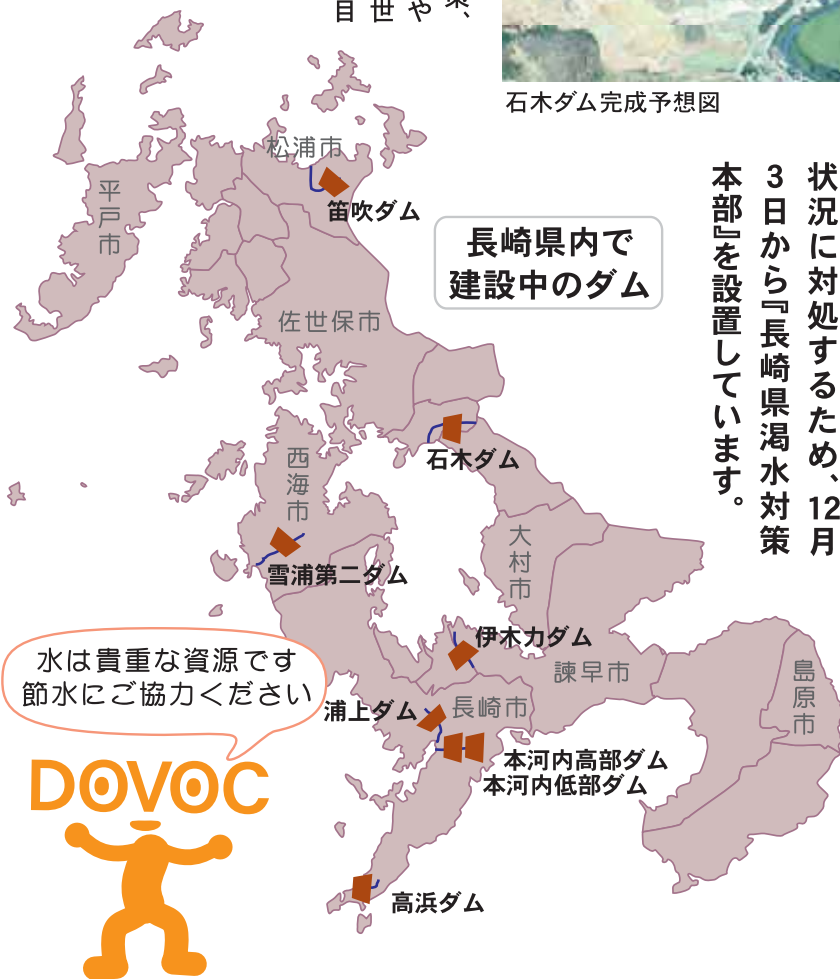
平成18年度、本体コンクリート部分が完成しました。

石木ダム建設事業



石木ダム完成予想図

石木ダムは、川棚川の治水対策、ダム下流の川棚町の水道用水や農業用水等の安定化、および佐世保市の水道用水の新規確保を目的としています。

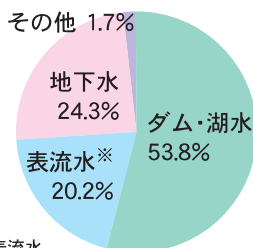


長崎県内で
建設中のダム

”水の星”ともいわれる地球は、太陽系の中でただひとつ水を湛えた惑星です。しかし、そのほとんどは海水で、私たちが身近に利用できる水は、地球上の水のわずか0.01%にすぎません。また、長崎県の川は、山から海までの距離が短く、しかも流れが急なため、降った雨はすぐに海に流れてしまいます。このため、本県は幾度となく水不足に悩まされてきました。平成6年の大渇水では、最も厳しかった佐世保市で、1日平均20・5時間にも及ぶ断水がありました。昨年も県内は雨が少なく、渇水状況に対処するため、12月3日から『長崎県渇水対策本部』を設置しています。

◎長崎県内の上水道の取水量内訳

(実績1日平均の場合)



※表流水
ダムなどの補給設備がない河川で、直接取水を行っているもの

水は貴重な資源です
節水にご協力ください



生活用水・工業用水の供給

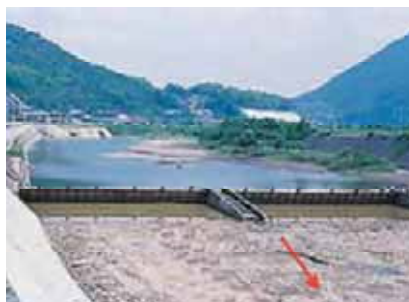
生活用水や工業用水、また水力発電などに必要な水を確保します。



(国土交通省ホームページより)

渇水時の流水の補給

本来河川がもっている機能を正常に維持するために、渇水時にもダムから流水の補給を行います。



平成6年渇水時の状況(川棚川:山道堰)

洪水の調節

洪水時に上流からの河川流量をダムで調整し、下流の河川流量を低減させ洪水被害の軽減を図ります。



平成2年の洪水(川棚川:町道宿平島線付近)

ダムの役割

頑張れ!
ルーキー

rookie FIGHT!!



平成19年度第13回土木部技術職員等研究発表会
最優秀賞受賞

島原振興局建設部河港課港湾漁港班

井手 哲 主任技師



汚れていく海、荒廃する施設を
何とかコストをかけずにきれいにできる方法はないか、
そんな課題を、行政と地域住民が協働で解決！

平成19年度第13回土木部技術職員等研究発表会で、島原振興局河港課港湾漁港班の井手哲主任技師(33歳)が書いた論文「ヤギ・羊・ロバ・ポニー E C O 大作戦」が最優秀賞を受賞。この論文には、当時、港湾漁港班が抱えていた「公園の雑草」と「砂浜に流れ着くアオサの異臭」という二つの問題に住民と共働で取り組んだユニークで、かつ画期的な試みが綴られています。今回は受賞者の井手主任技師に話を聞いてみました。

「当時、海浜公園の雑草の除去に約50万円、アオサの撤去に約150万円という費用がかかり、問題は深刻でした。私はなんとか解決策はないものかと島原農業高校の山田先生に相談したところ『ヤギや羊の飼料にどうでしょう?』と提案されたんです。おもしろい!と思い、さっそく公園に一頭の羊を放してみたら、すぐにモグモグと公園の草を食べ始めました。その瞬間に解決の糸口が見えた気がしました。」と当時をふりかえる井手主任技師。その後、井手技師ら港湾漁港班は島原農業高校の生徒たちと協力しながら、動物を用いた雑草とアオサの除去活動「ヤギ・羊・



島原農業高校の山田先生(右)と生徒さんたち

ロバ・ポニー E C O 大作戦」をスタート。行政と学校がタッグを組んで生まれた一つの試みは、公園をきれいにするだけでなく、地域の憩いの場、ふるさとのきれいな海をとりもどす運動の火種となりました。

また、アオサの除去作業をするうちに、沈殿するガタの解消と水質浄化が新たな課題として浮上。このときも井手技師ら港湾漁港班が先頭を切り、水質浄化の効果があるEM菌を活用した地域住民参加型の水質浄化計画を立ち上げました。

「EM菌の入った泥団子を地域の人たちみんなで作って、それを海に投入するという活動です。何か環境に良いことをやってみたいという思いは誰の心にもあるはず。行政が上手に情報発信をすることで、その思いを実際の活動につなげていければと思います。」

今ではすっかり地域の憩いの場として生まれ変わった海浜公園。最近では、公園に動物を放して『ふれあい動物園』を開き、子どもたちに動物とのふれあいを提供するなどの試みも行われています。



EM菌の泥団子づくりに協力する地域の皆さん



公共事業のデザイン支援

長

崎県では、「長崎県美しいまちづくり推進条例」を平成15年4月に施行し、地域の特性を活かした優れた景観の保全と創造を押し進めています。その中で、今回は「県公共事業等デザイン評価制度」をご紹介します。

までの公共事業の中には、工事期間の短縮や経済性を優先するあまり、十分に景観に配慮されていないものもありました。

本

県では、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」について、世界遺産への登録を目指して取り組んでいます。その中の土木部の役割は、市町の景観条例の制定支援、

土

木部では、県が行う公共事業を対象にしたデザイン支援会議を開催しています。景観やデザインの専門家によるデザインの評価が行われ、設計や工事に反映しています。まだまだ数は少ないですが、着実に景観に配慮した公共施設が生まれています。



周辺に配慮した建築物(平戸市千里ヶ浜)

夏期の海水浴利用だけでなく、年間を通して利用される休憩施設です。道路側からの美しい海岸の眺望を損なうことなく、立ち寄りたくなるよう工夫した設計を行いました。



既存樹木を残す(大村市久原)

都市計画道路の工事箇所にあった巨木を、通常であれば切って処分するのですが、道路を利用する人からの景観を確保するために移植しました。

美しいまちづくりホームページ

<http://www.pref.nagasaki.jp/beautiful/>

お問い合わせ◎まちづくり推進局 景観まちづくり室

☎095-894-3151 FAX095-894-3462

✉s08510@pref.nagasaki.lg.jp



デザイン支援の検討風景

景観やデザインの専門家によるデザイン支援会議を開催。県の公共事業について、模型などを使ってデザインの調整・評価を行っています。

平成20年測量士・測量士補試験の実施について

建設企画課 ☎095-894-3021

国土地理院では、平成20年測量士・測量士補試験を実施します。受験案内、願書を土木部各機関で交付しています。

- 試験日／5月18日(日)
- 試験地／東京都、福岡県ほか
- 願書受付期間／2月29日(金)まで
- 願書提出先／国土交通省国土地理院総務部総務課(茨城県つくば市)
- 願書交付機関／1月15日(火)より県建設企画課、各振興局・地方局建設部、各土木事務所

県営住宅空き住戸への入居者募集

- ①長崎県住宅供給公社 ☎095-823-3050
- ②同佐世保事務所 ☎0956-22-9612
- ③同諫早事務所 ☎0957-26-9053
- ④同大村事務所 ☎0957-52-6825

【募集住宅一覧表配布】

- とき／2月29日(金)～※午前9時～午後5時
- ところ／各地区の事務所
※長崎地区は県庁、長崎土木事務所等でも配布。

【受付】

- とき／3月7日(金)～10日(月)
※午前10時～午後4時
- ところ／各地区の事務所

【公開抽選(申込多数の場合)】

- とき／3月19日(水)=長崎・佐世保・大村、3月18日(火)=諫早
- http://www.pref.nagasaki.jp/keneijuutaku/kouei/

アスベスト助成事業について

建築課 ☎095-894-3093

長崎県では民間建築物のアスベスト除去工事等を助成しています。

- 事業年度／平成19年度～平成21年度
- 対象物／不特定多数の方が利用する建築物で、露出して吹付アスベストが使用されているもの
- 対象規模／1,000㎡超
- 事業対象
 - ・アスベスト成分調査に要する費用
 - ・アスベスト除去等に要する費用

- 補助率
民間事業者負担(1/3)+行政負担(2/3)
(各市町により限度額あり)

- 助成制度が利用できる市町(H19年度)
長崎市、佐世保市、諫早市、島原市、西海市、対馬市、時津町
※詳しくは県またはもよりの市・町へお問い合わせ下さい。

建築基準法の改正に伴う建築確認の手続きについて

建築課 ☎095-894-3093

構造計算偽装問題の未然防止等を図るため、昨年6月21日に改正建築

基準法が施行されました。これにより、確認申請の手続きにおいて、一定の高さ以上等の建築物で構造計算適合性判定が必要となりました。

- 判定手数料／確認申請手数料に加え、以下の手数料が必要です。

【判定手数料】

- ・1000㎡以下 186,000円
- ・1000㎡超～2000㎡以下 227,000円
- ・2000㎡超～1万㎡以下 249,000円
- ・1万㎡超～5万㎡以下 311,000円
- ・5万㎡超 519,000円

- 確認申請手続きの円滑化について
改正建築基準法の施行後の円滑な申請手続をサポートするため、以下の相談窓口を設置しました。

【県相談窓口】

- ・改正建築基準法関係
審査指導班 ☎095-894-3093
- ・構造計算適合性判定
構造計算判定班 ☎095-894-3098

【建築構造サポートセンターの設置】

- 設計事務所を対象に、S造、RC造の構造設計をサポートします。(無料)
- ・(社)長崎県建築構造技術者協会九州支部長崎地区会

☎095-862-0653



「土木の日 写真コンテスト」最優秀賞に石井隆昌氏

昨年11月に実施した土木の日写真コンテストには県内全域から多数の応募があり、11月18日のDOVOCフェアの会場において表彰式を行ないました。その中から、最優秀賞に輝いた佐世保市在住の石井隆昌さんの作品を、今回の表紙写真として掲載させていただきました。新西海橋の完成から二か月後に撮影されたこの作品は、二隻の漁船が橋の下で交差するタイミングを2時間待って撮影されたそうです。新西海橋のダイナミックな橋脚と、その下に行き交う漁船とのコントラストが見事に捉えられています。



表彰を受ける石井隆昌氏(右)